

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077300244
法人名	有限会社 ひがし
事業所名	グループホームたかみ
所在地	福岡県うきは市浮羽町高見1750-1 (電話) 0943-77-3040

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 11月 17日
評価確定日	H22年 1月 15日

【情報提供票より】 (平成21年10月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	15 人
常勤	14人
非常勤	1人
常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,400 円	その他の経費(月額)	9,150 円	
敷金	有() 円	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (100,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年10月29日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	11 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	筑後川温泉病院 上田内科胃腸科医院 中村歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所から見える山の紅葉は特産の柿の木と自然が調和して、見事な景観として訪れる人々を魅了している。「利用者は(父・母)職員は(子・孫)であり、利用者と職員は家族の一員である」と理念に掲げ、日々、職員は利用者と喜怒哀楽を共にしながら、利用者一人ひとりに思いやりと笑顔で接することを心がけ、実践している。利用者は、菜園で取れた旬の野菜で作った食事や四季折々の花見やドライブ等の外出を楽しみながら生活している。運営者・管理者・全職員の利用者に対する熱い思いが感じられ、地域の高齢者ケアサービスの拠点として、今後益々期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題について、改善シートを作成し「理念の共有と日々の取り組み」については全職員で話し合い、共有してケアに取り組む等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が中心となり、全職員が意見を出し合って取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告して、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。委員からインフルエンザ対策についての質問があり、消毒液設置やマスクを常備する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置している。家族等来訪時には声かけする等、積極的に意見、不満、苦情を聴取するよう努めている。事業所以外の第三者相談窓口については、利用開始時に説明し、玄関に見やすく掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	事業所便りを近隣に配布し、日常的に散歩や買い物等で挨拶を交わしている。地域行事への参加し、事業所主催の夏祭りや餅つき会に地元住民の参加がある等、積極的に地域との交流に努めている。また、中学生の職場体験学習を受け入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の視点が加わった事業所独自の理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、ミーティングで理念について話し合い具体的なケアについて確認し、言葉かけや態度等、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所便りを近隣に配布し、日常的に散歩や買い物等で挨拶を交わしている。地域行事に参加し、事業所主催の夏祭りや餅つき会に地元住民の参加がある等、積極的に地域との交流に努めている。また、中学生の職場体験学習を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が中心となり、全職員が意見を出し合って取り組んでいる。前回評価の改善課題について、改善シートを作成し「理念の共有と日々の取り組み」について全職員で話し合い、共有してケアに取り組む等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告して、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。委員からインフルエンザ対策についての質問があり、消毒液設置やマスクを常備する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所は事業所便りを持参し、行政担当者へ現状を報告したり献立の専門的アドバイスについて相談する等、日常的に連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員は、制度について内部・外部研修で学ぶ機会があり、周知徹底を図っている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。利用者及び家族へは、入居時に説明している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回発行の事業所便りと併せて、担当職員作成の手書きの手紙を添えて送付している。家族来訪時に暮らしぶりや健康状態等を報告している。また、緊急時には家族等へ電話で状況報告や連絡している。金銭管理については、1～2ヶ月毎に金銭出納帳を明示し、家族等へ報告している。家族等の署名・押印がある。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している。家族等来訪時には声かけする等、積極的に意見、不満、苦情を聴取するよう努めている。事業所以外の第三者相談窓口については、利用開始時に説明し、玄関に見やすく掲示している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は職員から個別に話を聴いたり、コミュニケーションを図る等して、異動や離職を抑える努力をしている。日常的にユニット間で交流し、職員の異動や離職による利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては公平性を持ち、性別や年齢等で採用対象から排除しないようにしている。また、配置、昇進、教育訓練等において差別なく誰もが安心して働ける職場環境づくりをしている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は人権教育の重要性を認識し、全職員は内部・外部研修で人権に関して学ぶ機会がある。パンフレット・研修記録・報告書がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は日常的に学ぶことを推進し、研修等の案内は、職員がいつでも確認できるよう掲示している。研修内容については、全職員が共有できるよう伝達研修で報告している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者ネットワークに加入し、管理者や職員は研修会に参加し、他事業所と交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学や自宅訪問を行い、馴染みの関係を築くよう家族等と相談しながら工夫している。やむを得ず即利用の場合には、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう利用者の気持ちに寄り添い、言葉かけや会話を多く持つ等、工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者から漬物漬けや伝統行事等を教えてもらう場面があり、お互いに労わり支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族から生活歴等を聴取し、本人の表情や言動から本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者・家族の思いや意向及び全職員の気づきを取り入れ、個別具体的な介護計画を作成している。家族の署名、押印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて介護計画を随時見直し、家族等へ連絡している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者にとって負担となる受診や入院の回避に努め、利用者が入院した際は、本人や家族、医療機関と連携を図っている。また、通院や送迎等の必要な支援は、それぞれ柔軟に支援している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの利用開始前の受診経過、現在の受診の希望を把握し、今までのかかりつけ医や希望する医療機関による受診を支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、利用開始時に家族等へ口頭で医療機関に委ねることを説明している。	○	重度化や終末期の方針については明文化し、家族・本人の意向を確認しながら、その都度話し合い、医療関係者ならびに職員の全員で方針を共有してほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修等で職員の意識向上を図っている。日常的にプライバシーの確保について職員間で注意し合い、管理者等は対応に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調等に配慮しながら、その日そのときの気持ちを尊重して支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。食事は同一テーブルを囲み、利用者と同じものを和やかな雰囲気の中で楽しく食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴の設定はあるが、利用者の希望にあわせ、入浴を楽しめるよう柔軟に支援している。言葉かけを工夫する等して、現在は入浴拒否の利用者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来ることや得意なことを把握し、掃除、洗濯物干し、料理、漬物漬け等の家事やフラワーアレンジメントやお茶会等、楽しみごとも含めて、一人ひとりに支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、花見、ドライブ、外食等、利用者一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握して見守り等を行い、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルがある。年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施し、地域住民に参加を呼びかけている。非常用食料・飲料水・備品等を準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の食事摂取量及び水分摂取量の記録がある。献立はアンケートボックスを作る等して利用者の嗜好を考慮し、職員が作成している。	○	最低年1回は、かかりつけ医や栄養士による専門的アドバイスやチェックを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁に利用者と職員が協働制作した絵画、手芸品、ドライフラワー等の作品を飾り、いたるところに季節の花をさりげなく置く等して、生活感や季節感を採り入れ、家庭的雰囲気配慮している。利用者が不快と感じる音や光はない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の好みでフローリングまたは畳敷きのどちらか選択できるようにしている。利用者の使い慣れたリネン、整理筆筒、椅子、時計等が持ち込まれ、ぬいぐるみ、家族等の写真、自作のカレンダーを飾る等、その人らしい個性を尊重し、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。